

鋸南町総合計画後期基本計画（素案）に関するパブリックコメント（意見募集）の結果

1 意見募集の実施状況

- (1)募集期間 令和8年1月16日(金)から2月6日(金)まで
- (2)意見の提出者数 1名
- (3)意見の件数 3件

2 意見募集の結果

NO.	意見	回答
1	<p>P77 誰もが住みやすく、働きやすく、創業しやすい環境の整備に努めます、他について 町営住宅の再整備と町有財産の活用について ①現在、主要な宿泊施設が集まる観光エリアに位置する町営住宅について、老朽化や景観への不一致が課題であると認識しています。 老朽化した住宅について、毅然とした対応で退居勧告を実行し、再整備を進めること。 ②町が保有する普通財産をリスト化し、町民に広く公開して有効活用に繋げることや、「ペットと同居出来る借家」「DIY可能な賃貸住宅」「移住定住者向けモデルハウス」として再生し、若年層の呼び込みに繋げること。 空き地であれば、千葉の木を使ったタイニーハウスを建築して賃貸やお試し移住住宅にするなど、移住定住促進に向けての町行政の本気度を表しています。 ③普通財産・空き家バンクの物件は、町外資本による買い占めや転売目的による買い漁りを防ぐため、「数年以上の町内居住確定者」を優先した入札制度や、居住目的の個人に対する価格設定の優遇措置を講じていただきたいです。 賃貸物件で町での暮らしを検討している人が第一歩を踏み出しやすく、町に根ざして暮らしたい人々が土地・建物入手しやすい仕組みを構築することを望みます。</p>	<p>①町営住宅については、老朽化が進んでおり安全性に課題があることから新規の募集を行っておらず、現建物については解体を予定しています。町ではこうした状況に鑑み、町営住宅の居住者の事情に配慮とともに、法令に基づいて、今後の町営住宅のあり方を検討しているところですが、いただいたご意見を参考にして、引き続き町営住宅に関する施策や事業に取り組みます。</p> <p>②町有地や空き公共施設など未利用の町有財産については、民間活用の可能性を検討したうえで、町主導によるサウンディング型市場調査や千葉県の空き公共施設の活用事業の活用など、有効な利活用に向けた取組を進めているところですが、いただいたご意見を参考にして、引き続き町有財産の利活用に関する施策や事業に取り組みます。</p> <p>③町では空き家の有効活用を通して、移住・定住促進による地域の活性化を図ることを目指しており、空き家については「鋸南町空き家情報登録制度『空き家バンク』設置要綱」において事業目的に沿うよう「利用登録者」を規定しているところですが、いただいたご意見を参考にして、引き続き空き家の活用に関する施策や事業に取り組みます。</p> <p>上記については、85ページに記載しました「主要な施策・取組」の中で対応します。</p>
2	<p>P79 未利用地の活用と美しい農山漁村の風景の維持について 1. 鋸南富山IC付近の採石場跡地の景観回復と緑化指導について 鋸南町の玄関口であるインターチェンジ付近の採石跡地は、来訪者が最初に目にする「町の第一印象」を左右する重要な地点です。 現在の土肌が露出したままの景観は、本計画が掲げる「美しい風景の維持」と大きく乖離しており、観光振興の観点からも大きな損失であると考えます。 採石法などで緑化を義務付けられていると思うのですが、現状の放置はなぜ起こっているのでしょうか。 町として以下のような働きかけは出来ないものでしょうか。 ①県等の認可権者と連携し、所有者や事業者に対し、段階的な緑化および景観回復の進捗報告を求める事。 ②単なる植樹にとどまらず、土壤の回復から在来種の育成までを見据えた、持続可能な森への再生を指導すること。</p>	<p>良好な生活環境の維持や観光の振興のためには、美しい農山漁村風景を維持していくことが求められることから、町では千葉県と協力しながら鋸南町宅地開発等指導要綱に基づく指導や「汚染土壤・産業廃棄物最終処分場はいらない町」の宣言等の取組を実施しているところですが、いただいたご意見を参考にして、引き続き適切な土地利用に関する施策や事業に取り組みます。</p> <p>上記については、79ページに記載しました「主要な施策・取組」の中で対応します。</p>

NO.	意見	回答
3	<p>P83.子どもから高齢者まで快適に利用できる 公共交通網を整備しますについて 町営バスについて、利用実態に即した路線の再編とJR時刻表との連動、および多様な運送形態（自家用有償旅客運送や地域おこし協力隊の活用等）の積極的な導入により、「誰もが使いたくなる公共交通」への転換を検討すべきであると考えます。</p> <p>①利用者視点に立った協議・検証体制の確立 現在、活性化協議会にて議論が進められているとホームページで発表されていますが、計画の推進にあたっては、中高生の通学・部活動、天候不良時や怪我の際の代替手段といった「生活者の切実なニーズ」を不可欠な視点として取り入れていただきたいです。 委員による継続的な実乗車調査などを通じ、現場の課題を肌で感じる「生活者に寄り添った検証」の実施を、計画内に明文化していただきたいです。</p> <p>②運行ルートの効率化と高頻度化の検討 現在の南・北まわりの分離した体系を一本の循環ルート（例：赤バスルートのみ）へ集約し、乗務員交代制を取り入れながら、駅での調整時間以外は途切れることなく運行する施策を提案します。 メリット：「いつでも乗れる」「往復ともに利用できる」という安心感の醸成。 効率化の工夫：基本ルート（例：赤バス第1便ルート）を標準としつつ、元名・奥山・岩井袋等のエリアは、④で述べる多様な輸送形態等で補うことで、メインルートの速達性と利便性を両立できると考えられます。 少少の遠回りを許容しても「待ち時間の短縮」と「分かりやすさ」を優先し、利用を促す検討をお願いします。</p> <p>③モビリティ・マネジメント（鉄道接続）の強化 JR保田駅の特急停車時刻や、通勤・通学時間帯のJR時刻表(将来的には高速バスの時刻表)と密接に連動したダイヤの改正を検討してください。 駅からの「ラストワンマイル」の接続最適化は、自家用車を持たない層の移住定住促進や、観光客の回遊性向上にも直結する重要な施策であると考えます。 佐久間ダム公園周辺の駐車場不足解消や、渋滞緩和の対策にもなりうる可能性があるのではないでしょうか？</p> <p>④多様な輸送形態と人材確保の検討 町営バスでは対応が難しい移動需要を補完するため、NPOや地域団体、個人による「自家用有償旅客運送」の活用を検討してはいかがでしょうか。 あわせて、トウクトウクやデザイン性の高い小型車両を導入し、移動そのものを観光資源として位置づけることで、観光振興と町内移動支援の両立が期待されます。 また、運転業務や交通関連事業の立ち上げを担う人材として地域おこし協力隊の活用を検討することで、担い手不足の解消と地域内雇用の創出につながる可能性もあるのではないでしょうか？</p> <p>【期待される効果】 公共交通を「交通弱者のための福祉」ではなく、「町民・観光客双方が使いたくなるインフラ」へと転換して、さらには地域内雇用を生むことで、総合計画が掲げる「住み続けたくなる町づくり」に大きく寄与するものと考えます。</p>	<p>住民の日常生活の支援や定住志向の向上、観光の振興のためには、地域公共交通の利便性向上が求められるところから、町では事業者との連携の下、町営循環バスの運行や都心方面への通勤・通学者を対象とした助成金交付、福祉ボランティア活動の活性化等に取り組んでいるところですが、いただいたご意見については、現在、鋸南町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通計画の検討の中で参考とさせていただいたうえで、引き続き地域公共交通の利便性向上に関する施策や事業に取り組みます。</p> <p>上記については、45ページ及び83ページに記載しました「主要な施策・取組」の中で対応します。</p>